

# うみやまかわ新聞

「うみやまかわ新聞」は  
日本をつなぐ「海」「山」「川」を  
キーワードにした新聞です  
全国の小学生が

それぞれの地域取材しました  
さまざまなうみ・やま・かわと  
身近なうみ・やま・かわを比べ

広い海に浮かぶ島国の恵みや

同じ日本にある地域の  
「つながり」や「ちがい」を

感じてください

2015年度



U  
M  
I  
Y  
A  
M  
A  
K  
A  
W  
A



www.umiyamakawashinbun.net



## 『うみやまかわ新聞』を読んで イメージしましょう

各地の『うみやまかわ新聞』を見比べながら  
海と島でできた日本や自分が暮らす地域についてイメージしてみましょう

Q どんなところに自分が暮らす地域との「ちがい」を感じた?

Q どんなところに自分が暮らす地域との「つながり」を感じた?

Q 自分が暮らす地域にある自慢したい「うみ」「やま」「かわ」は?

## 『うみやまかわ新聞』をつくってみませんか?

『うみやまかわ新聞』は小学校高学年向けの総合学習プログラムです。  
地域学習やキャリア教育などの総合学習プログラムとして、  
「多面的・総合的にものごとを見て、考える力」「自然や人とのつながりを尊重する心」  
「情報の基本知識(メディアリテラシー)」などを  
総合的に学ぶことができるアクティブ・ラーニングのモデルカリキュラムです。  
詳しくは『うみやまかわ新聞』公式サイトをご覧ください。

<http://www.umiyamakawashinbun.net>

『うみやまかわ新聞』  
発行：特定非営利活動法人離島経済新聞社  
東京都世田谷区三軒茶屋2-49-6  
<http://www.ritokei.org/>  
発行日：2016年2月1日  
印刷：朝日プリンテック  
協力：公益財団法人日本財団

【お問い合わせ先】  
umiyamakawa@ritokei.com

離島経済新聞社



当プロジェクトは「島を知ること」を日本を知ることと  
コンセットに活動するNPO法人離島経済新聞社と、  
日本財団の共同事業として実施しています。

私たちが暮らす日本は  
 広い海とたくさん島の島でできていて  
 一つひとつの地域に特徴的な自然や歴史、文化があります

『うみやまかわ新聞』は新聞づくりを通して  
 海と島でできた日本を学ぶプロジェクトです

2015年度は北海道から沖縄まで、  
 全国12地域の小学生たちが  
 うみ・やま・かわの「水のつながり」をテーマに  
 それぞれの地域を伝える新聞づくりに取り組みました

新聞を読みながらイメージしてみよう  
 この島国にはどんな恵みがあり、つながりがあるのか  
 各地の「うみ」「やま」「かわ」を知ること  
 きっと、それぞれの地域の魅力を知ることができるでしょう



【利尻島 / 北海道】

日本の北端にある利尻島は「利尻こんぶ」をはじめウニやアワビなどの海産物が獲れる島。島の中央には1,721mの利尻富士がそびえ、多様な生物が暮らす山や沼があります。

人口 4,893人  
 (H27.12月末 / 利尻町・利尻富士町合計)  
 面積 182.19km<sup>2</sup>

【いすみ市 / 千葉県】

千葉県の南東部に位置し、温暖な気候と肥沃な耕地に恵まれた田園都市。市の東側は太平洋に面していて、イセエビやタコなど水産物が豊富で、アオウミガメの保護活動なども行われています。

人口 40,014人  
 (H28.1月1日 / いすみ市)  
 面積 157.44km<sup>2</sup>

【北杜市 / 山梨県】

山梨県の総面積の13.5%を占める北杜市は、八ヶ岳連峰や南アルプスなどの山々に囲まれ、市内3ヵ所で日本名水百選が認定されているなど、水資源が豊富な名水の里と呼ばれています。

人口 40,014人  
 (H28.1月1日 / いすみ市)  
 面積 602.48km<sup>2</sup>

【木曾町 / 長野県】

長野県南西部にある木曾町は、総面積の90%を山林が占める山間の町。かつては日本四大関所の一つ、福島関所があり政治・経済の中心だった福島宿など、11の宿が置かれた中山道の宿場町でした。

人口 11,930人  
 (H28.1月1日 / 木曾町)  
 面積 476.03km<sup>2</sup>

【姫路市・家島 / 兵庫県】

播磨灘に浮かぶ家島は、兵庫県南西部に位置する島。大小40あまりの島で構成される家島諸島のなかで、人が暮らしている4島(家島・坊勢島・男鹿島・西島)のうちの一つです。

人口 3,355人  
 (H22年度国勢調査 / 家島)  
 面積 5.46km<sup>2</sup>

【富津市・金谷地域※ / 千葉県】

房総半島の中西部、東京湾側に位置する富津市。江戸時代から金谷石が採掘されていた館山や、関東の天の橋立といわれ南房総国定公園にも指定されている富津岬などがあります。

人口 45,263人  
 (H28.1月1日 / 富津市)  
 面積 205.53km<sup>2</sup>

【江戸川区・葛西地域※ / 東京都】

江戸川区は区民1人あたりの公園面積が23区内で最も広い、東京23区内最東端の自治体。江戸時代に塩を運ぶために整備された新川など、河川に囲まれた地域です。

人口 686,387人  
 (H28.1月1日 / 江戸川区)  
 面積 49.09km<sup>2</sup>

【日田市・中津江、上津江地域※ / 大分県】

九州北部の中央に位置する日田市の山間地域。しいたげやゆずの栽培が盛んで、地域内には貴重な原生林が残り、有明海にそそぐ筑後川の源流として美しい水が湧き出しています。

人口 1,718人 (上津江町:857人 / 中津江村:861人)  
 (H27.12月31日 / 上津江町・中津江村自治会合計)  
 面積 170.44km<sup>2</sup> (上津江町:88.53km<sup>2</sup> / 中津江村:81.91km<sup>2</sup>) / 日田市全体では 666.19km<sup>2</sup>

【上島町 / 愛媛県】

瀬戸内海のほぼ中央に位置する上島町は、弓削町・生名村・岩城村・魚島村の4町村が合併し、誕生。弓削島、生名島、岩城島、佐島、高井神島、魚島など25島からなる町です。

人口 7,319人  
 (H27.12月31日 / 上島町)  
 面積 30.42km<sup>2</sup>

【佐川町・尾川地区※ / 高知県】

高知県の中西部、仁淀川の支流の一つ、柳瀬川沿いにある佐川町。江戸時代から教育に力を入れて、郷校・名教館を創設するなど、文武両道を推奨してきた文教のまちとされています。

人口 13,427人  
 (H28.1月1日 / 佐川町)  
 面積 101.21km<sup>2</sup>

【対馬市 / 長崎県】

対馬市は韓国までわずか49.5kmで、日本の九州本土福岡まで約130kmという国境の島。島の大部分が香岐対馬国定公園に指定されており、ツシマヤマメコをはじめ、特有の動植物が存在しています。

人口 32,519人  
 (H27.12月末 / 対馬市)  
 面積 708.66km<sup>2</sup>

【うるま市・津堅島 / 沖縄県】

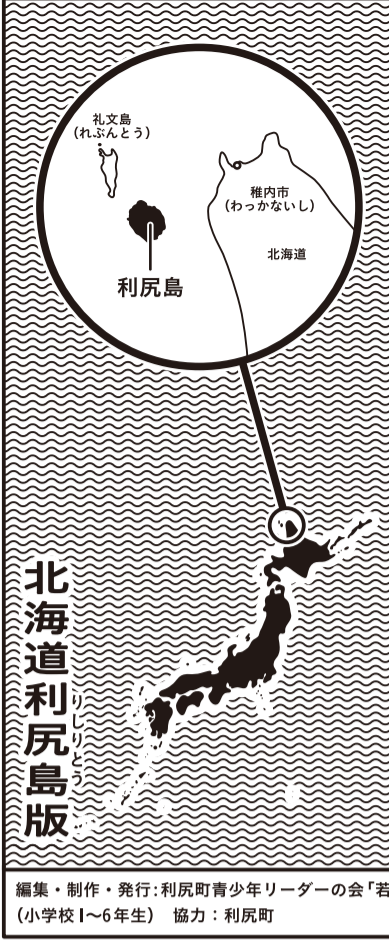
標高39mのほぼ平坦な津堅島は、中央部のほとんどが人參畑で、別名「キャロットアイランド」とも呼ばれています。周囲約7kmを海を囲まれた島は、魚介類も豊富に水揚げされます。

人口 467人  
 (H27.12月31日 / 津堅島)  
 面積 1.88km<sup>2</sup>

※この紙面は参加地域の記事をダイジェストで紹介する「全国版」になります。  
 すべての記事は、『うみやまかわ新聞』の公式ホームページ  
 (http://www.umiyamakawa.net) または、「地域版」の紙面をご覧ください。  
 「地域版」についてのお問い合わせはコチラ ▶ umiyamakawa@ritokei.com

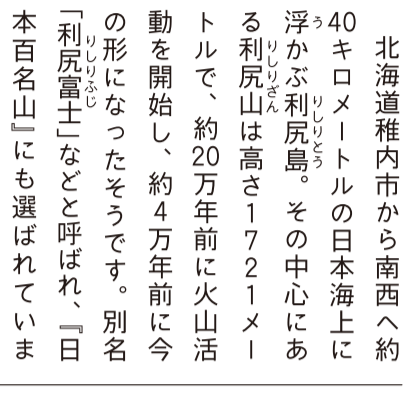
# うみやまかわ新聞

テーマ：楽しい利尻



北海道利尻島版

## 利尻のシンボル 利尻山



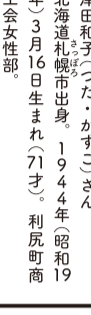
夏のリ尻山  
40キロメートルの日本海上に浮かぶ利尻島。その中心にある利尻山は高さ1721メートルで、約20万年前に火山活動を開始し、約4万年前に今の形になったそうです。別名「利尻富士」と呼ばれ、「日本百名山」にも選ばれています。自然が豊かで、ここにはかない高山植物があるので、登山家にも人気です。登山ルートは、主に杓形コースと鷺泊コースの2つがあります。杓形コースは、上級者向けで5合目まで車が通れます。岩場が多く、高山植物を見ることが出来ますが、難所が続きます。足場の悪いところもあり、大体7月上旬まで雪が残るので、専用の登山道具が必要になります。

## 利尻で大切にされている リシリヒナゲシ



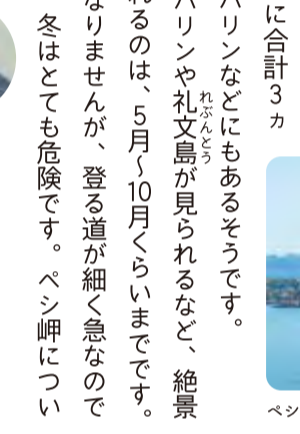
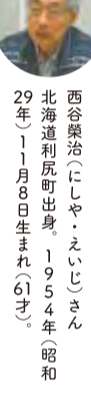
リシリヒナゲシは小さな黄色い花で、利尻山にしか咲かない、固有種とされています。約60万年前「氷河期」からあるそうで、7月上旬から下旬まで利尻山の7〜9合目付近で見ることが出来ます。利尻の町中で、そっくりな花が咲いていますが、これは「チシマヒナゲシ」というものが花です。リシリヒナゲシは近い将来、絶滅の危険性が高い植物として、絶滅危惧ⅠB類にも指定されています。だから、無理やり採りたりすることが禁じられています。

取材協力 津田和子(つたわかし)さん  
北海道札幌市出身、1944年昭和19年1月16日生まれ(71才)、利尻町商工会女性部



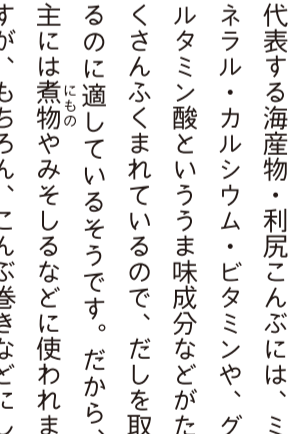
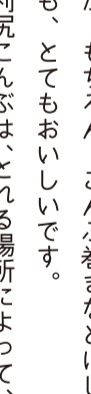
とのことです。リシリヒナゲシは、現在、利尻島に4000株ほどしか残っていません。減っている原因は引きぬかれたり、登山者が種をくつの裏などに付けて下山してしまうため、生息できる利尻山の外に種を持って行ってしまふことなどが考えられるそうです。リシリヒナゲシは細い根が何年もさき続けていたり、根が岩などにしがみついていて、強い花とされていますが、今あるかん境を保護しないと、いくら強くてもどんどん減ってしまいます。私は、リシリヒナゲシは利尻島のみならず大切にされています。花なのでも、これも大切なことだと思います。

取材協力 西谷英治(にしや、えいじ)さん  
北海道利尻町出身、1955年昭和30年1月8日生まれ(61才)



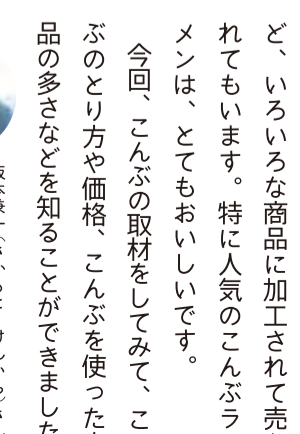
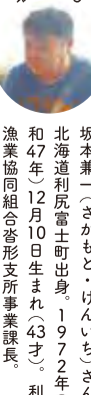
ペシ岬は、アイヌ語で「崖」を意味する「ベシ」という言葉から、「ベシ岬」という名前になったそうです。利尻島では、遠くから見ると岩のかげや形がゴリラに見えるので「ゴリラ山」と呼ばれています。ペシ岬の中腹には「会津藩士の墓」があり、頂上には「一等三角点」や「ベシ岬展望台」があります。会津藩士の墓は江戸時代に北方警備のために、会津藩から派兵された人たちの墓で、1810年(文化7年)頃に建てられました。ペシ岬以外にも島内に合計3カ所あり、北海道内やサハリンなどにもあるそうです。天気の良いと頂上からサハリンや礼文島が見られるなど、絶景スポットです。ベシ岬に登れるのは、5月〜10月くらいまでです。雪が降っても通行止めにはなりません。登る道が細く急なので滑って落ちる可能性もあり、冬はとて危険です。ベシ岬について調べてみて、利尻島の歴史など、改めて知ることができました。

取材協力 西谷英治(にしや、えいじ)さん  
北海道利尻町出身、1955年昭和30年1月8日生まれ(61才)



昔、利尻島沖には、クジラの群れが行き来していました。利尻富士町の大磯(アイヌ語で「大きいクジラ」と呼ばれていて、この辺りの海にクジラがいたそうです。利尻島に住んでいた人たちは、クジラの肉を食べたり、骨で道具などを作ったり、灯りをつけるために油を使ったりしていたと考えられています。また、日本で最初の英語教師、ラナルド・マクドナルドは、アメリカの捕鯨船で、利尻島の野塚という場所にたどり着きました。利尻島にはクジラにまつわる歴史がたくさんあります。しかし、クジラの数が減ってしまっただけで、貴重なクジラの肉を食べることも出来なくなりました。今でもクジラは、島の周りにいるのでしょうか。昔はたくさんいたけれど、今は島に来るクジラの数が減り、たまにしか見られなくなりました。もしかしたら海の沖の方に行っているかもしれません。クジラを見たい人は、ぜひ島に来て、海の沖の方へ行ってみてください。

取材協力 坂本兼一(さかもと けんいち)さん  
北海道利尻町出身、1977年昭和47年12月10日生まれ(43才)、利尻漁業協同組合杓形支所事務課長



利尻こんぶは、とれる場所によって、

いと危険で登れません。鷺泊コースは中級者向けです。3合目にある「名水百選」にも選ばれた甘露泉水を通じて、6合目を過ぎると、礼文島や鷺泊の街並みが見えます。山頂付近ではお花畑を見ることが出来ます。どちらのコースも登り6時間、下り4時間、休けい時間を入れると約11時間の登山です。利尻山の魅力は登山だけではなく、島の南側にあるオタマリ沼では、天気の良いときに利尻山が鏡に映したように、水面にキレイに映る「逆さ富士」が見られます。また、島内の鬼脇・鷺泊・仙法志・杓形地区からは、それぞれ違った形で利尻山を見ることができ、島に住んでいる人は自分のところから見えているのが一番キレイだと言います。季節によってもちがって、夏は緑がたくさん、冬は雪が積もって真っ白と、季節ごとにもキレイです。島で暮らす人は、みんな利尻山のことを誇りに思っています。利尻山は利尻島のシンボルです。ぜひ一度、島に来て利尻山に登ったり、そのキレイな景色を見たりしてみませんか？

利尻島には、2つの沼があります。1つ目は利尻富士町の「一泊沼」という場所にある「オタマリ沼」です。「オタマリ沼」の裏側にある、沼浦展望台から見た利尻山が、北海道の有名なおかし「白い恋人」のパッケージ写真に使われています。2つ目は、「姫沼」です。姫沼という名前は、1917年(大正6年)に3つの小沼から1つの大きな沼を作ったこと、ヒメマスという魚を放流したことから名付けられました。姫沼は、訪れる人が少なく、ひっそりとした場所にあります。

昔、利尻島沖には、クジラの群れが行き来していました。利尻富士町の大磯(アイヌ語で「大きいクジラ」と呼ばれていて、この辺りの海にクジラがいたそうです。利尻島に住んでいた人たちは、クジラの肉を食べたり、骨で道具などを作ったり、灯りをつけるために油を使ったりしていたと考えられています。また、日本で最初の英語教師、ラナルド・マクドナルドは、アメリカの捕鯨船で、利尻島の野塚という場所にたどり着きました。利尻島にはクジラにまつわる歴史がたくさんあります。しかし、クジラの数が減ってしまっただけで、貴重なクジラの肉を食べることも出来なくなりました。今でもクジラは、島の周りにいるのでしょうか。昔はたくさんいたけれど、今は島に来るクジラの数が減り、たまにしか見られなくなりました。もしかしたら海の沖の方に行っているかもしれません。クジラを見たい人は、ぜひ島に来て、海の沖の方へ行ってみてください。

利尻島には3つのわき水があります。どれも色がすき通っていて、冷たくておいしいです。わき水をくんで、料理や飲料水としても使われています。利尻島には3つのわき水があります。どれも色がすき通っていて、冷たくておいしいです。わき水をくんで、料理や飲料水としても使われています。

利尻島のニシン漁は1600年(慶長5年・江戸時代)から始まりました。漁の仕方は、ニシンの通り道にあみをはかける「刺しあみ漁」と、通り道をふさぎ、あみに追いこむ「建てあみ漁」があります。建てあみ漁の方がよくとれます。漁は大正時代に最盛期をむかえましたが、1955年(昭和30年)、ニシンがとれなくなり、原因は、とりすぎと、海の水温が高くなってしまったことだと言われています。でも利尻の人は、ニシン漁が復活することを望んでいます。

利尻島には3つのわき水があります。どれも色がすき通っていて、冷たくておいしいです。わき水をくんで、料理や飲料水としても使われています。利尻島には3つのわき水があります。どれも色がすき通っていて、冷たくておいしいです。わき水をくんで、料理や飲料水としても使われています。

### 利尻の沼!!

利尻島には、2つの沼があります。1つ目は利尻富士町の「一泊沼」という場所にある「オタマリ沼」です。「オタマリ沼」の裏側にある、沼浦展望台から見た利尻山が、北海道の有名なおかし「白い恋人」のパッケージ写真に使われています。2つ目は、「姫沼」です。姫沼という名前は、1917年(大正6年)に3つの小沼から1つの大きな沼を作ったこと、ヒメマスという魚を放流したことから名付けられました。姫沼は、訪れる人が少なく、ひっそりとした場所にあります。

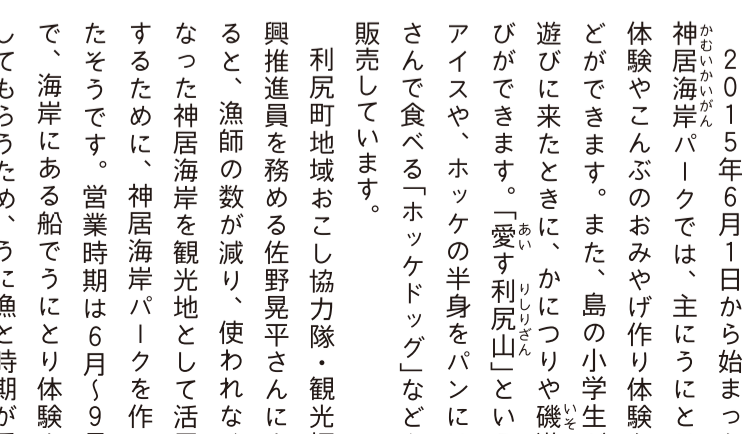
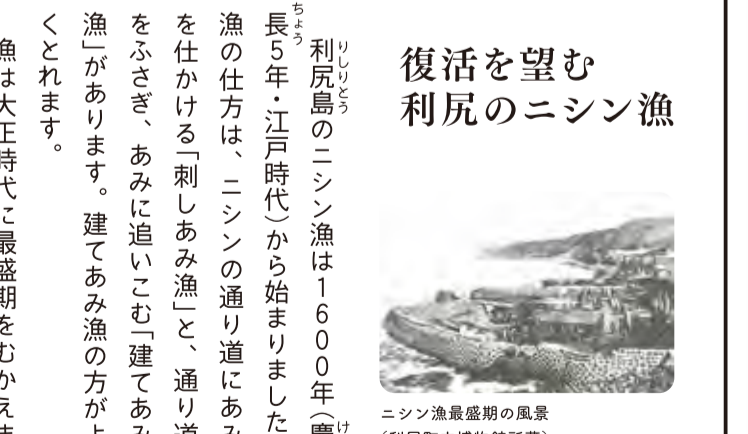
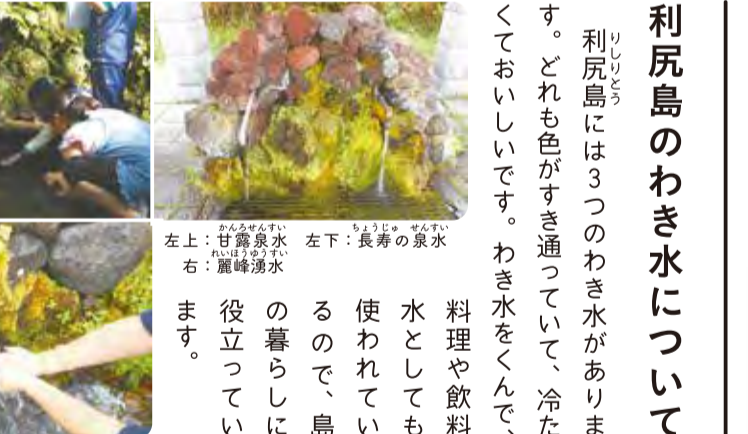
### 利尻の川

利尻島にある川は、ほとんどが水の流れていない川です。火山がふん火してできた島なので、水が地面に吸収されやすく、雨が降って流れていくなりに、地下に落ちていってしまうからです。地下に落ちた水は、伏流水という地下水になり、甘露泉水や麗峰湧水などといったわき水として流れ出てきます。

### 神居海岸パークについて

2015年6月1日から始まった神居海岸パークでは、主にうにとり体験やこんぶのおみやげ作り体験などが出来ます。また、島の小学生が遊びに来たときに、かにつりや磯遊びが出来ます。「愛す利尻山」というアイスや、ホットの半身をパンにはさんで食べる「ホットドッグ」なども販売しています。利尻町地域おこし協力隊「観光振興推進員を務める佐野晃平さん」によると、漁師の数が減り、使われなくなった神居海岸を観光地として活用するために、神居海岸パークを作ったそうです。営業時期は6月〜9月で、海岸にある船でうにとり体験をしてもらうため、うに漁と時期が重なっています。神居海岸パークでは、観光客に向けていろいろな工夫がされており、みんなが笑顔になる場所だと思っています。

## クジラと歴史



### 利尻こんぶについて

利尻漁業協同組合杓形支所の事業課 長・坂本兼一さんによる、利尻島を代表する海産物・利尻こんぶには、ミネラル・カルシウム・ビタミンや、グルタミン酸といううま味成分などがたくさん含まれているので、だしを取るのに適しているそうです。だから、主には煮物やみそ汁などに使われますが、もちろん、こんぶ巻きなどにして、とてもおいしいです。

### 復活を望む 利尻のニシン漁

利尻島のニシン漁は1600年(慶長5年・江戸時代)から始まりました。漁の仕方は、ニシンの通り道にあみをはかける「刺しあみ漁」と、通り道をふさぎ、あみに追いこむ「建てあみ漁」があります。建てあみ漁の方がよくとれます。漁は大正時代に最盛期をむかえましたが、1955年(昭和30年)、ニシンがとれなくなり、原因は、とりすぎと、海の水温が高くなってしまったことだと言われています。でも利尻の人は、ニシン漁が復活することを望んでいます。

### 利尻こんぶを使った人気商品

利尻こんぶを使った人気商品「利尻昆布ラーメン」(1袋258円/利尻漁業協同組合) 棒などでこんぶを巻く方法です。鎌で切るのが、いいこんぶだけを選んで使う場合は、選ぶことができません。一度にたくさんとることが出来るので、利尻こんぶは日本全国へ送られたり、利尻島内で売られています。島内では、こんぶラーメンやこんぶそばなど、いろいろな商品に加工されて売られています。特に人気のこんぶラーメンは、とてもおいしいです。今回、こんぶの取材をしてみて、こんぶのとり方や価格、こんぶを使った商品の多さなどを知ることができました。

# うみやまかわ新聞



テーマ..いすみ市の大自然から生まれるもの

## 千葉県いすみ市版

編集・制作・発行:いすみ市立太東小学校6年生

## 太東海浜植物群落とその周辺について



1920年(大正9年)7月17日に、国指定天然記念物として日本で最初に指定された中の一つ「太東海浜植物群落」について、牧野植物同好会の土屋喜久夫さんに取材しました。植物群落とは、それぞれに関連し合って生息している、複数の植物が生えている地域のことで、太東海浜植物群落は、約6000平方メートルの土地に、約20種類の植物が自生しています。よく見られる植物は、「ハマヒルガオ」「ハマエンドウ」「スカシユリ」などで、特に「ハマヒルガオ」は、5月のお昼頃が一番見頃だそうです。

太東海浜植物群落を正面に見て左側、夷隅川河口の砂浜には初夏になると「コアジサシ」という鳥がきて、砂浜に卵を産みます。しかし、砂浜が産卵場所と気づかずに入ってきてしまう人もいて、現在、減少傾向にあるコアジサシは、絶滅を危惧されています。私は、太東海浜植物群落の環境が、そこで暮らす生物たちを守る大切な場所だと思いました。

## 楽しみ方がたくさんある「夷隅川」

夷隅川には、絶滅危惧種で天然記念物に指定されているミヤコタナゴなど、めずらしい魚がたくさんいます。ミヤコタナゴは上流に生息することが多く、4センチメートルくらいの小さな魚です。同じく絶滅危惧種のニホンメダカも生息しています。いすみ市では魚の稚魚を放流するなど、絶滅危惧種を守る活動もしています。

このように夷隅川には、楽しみ方がたくさんあります。遊びにきてみてはいかがでしょうか？

## いすみ市の海とサーフィン

いすみ市の海は、千葉県内外からたくさん訪れます。1966年にオープンしたサーフィショップ、タニサーフ店長の中新茂さんによると、5月から9月くらいまでは毎週末サーフィンの大会が開催されていて、大きい大会には1000人くらいの参加者が集まるそうです。いすみ市はサーフィンが盛んで、市がサポートする子ども向けサーフィンスクールがあつたりします。

いすみ市の山田地区は源氏ぼたるが多く、「源氏ぼたるの里」に指定されています。夷隅郡市自然を守る会の大野健さんによると、源氏ぼたるが住みやすい環境は、里山で人と自然が共生して、水路がきれいなところなんです。源氏ぼたるの魅力はオスがいつせいに飛び交い、集団で光り出すことです。オスには発光器が2個あり、1個のメスよりも光が明るいそうです。昔は「オオポタル」や「ヤマポタル」などと呼ばれていましたが、一説には、優雅な光を源氏物語の主人公「光源氏」になぞらえ、「源氏ぼたる」と呼ばれるようになったそうです。

## いすみの梨をつくる工夫

「一宮・岬梨組合」に加わっているいすみ市岬町は、梨の産地として有名です。作られている梨には、いろいろな種類があります。「幸水」という、やわらかくてみずみずしい梨や、優しくてつくりとしたあまみで、形もきれいな梨の王様「二十世紀梨」、たつぷりの果じゅうが特徴の「豊水」などです。他にも、酸味が少なく、とてもあまみのが特徴の「新高」という種類もあります。

梨は、葉っぱ30枚に1個の果実を残すように育てて、収穫が近くなったら、水やりを控えると、あまくて果じゅうたっぷりに育つそうです。一宮・岬梨組合の地域は、関東地方の中では、梨の花がさく時期も早く、時期も一番早いそうです。また、肥料が豊富で土の力が強く、水はけがいたため樹が元気に育ち、いすみ市の夏の太陽が、果実をどんどんあまくします。みなさん、ぜひいすみ市に来て、収穫してください。

## 豊かな海が広がるいすみ市

いすみ市沿岸には、たくさんの魚や貝、海そうなどがとれる、「器械根」と呼ばれる魚に適した場所(漁場)があります。いすみ市大原漁港にある夷隅東部漁業協同組合の参事・最首恵介さんによると、昨年度(2014年)の漁獲量は約98万トンで、8月~11月はイセエビやサザエなど、12月~2月はブリやイナダ、サワラ、イワシ、タコなどがとれるそうです。特に、いすみ市はイセエビの漁獲量が多いことで有名です。その他にも、虹色の胸ビレがあり、とてもきれいなホウボウや、成長とともにサゴシ、サワラと名前が変わる出世魚のサワラも、よくとれます。地域によって呼び名があるヒラマサや、海底に住むヒラメという魚もとれるそうです。

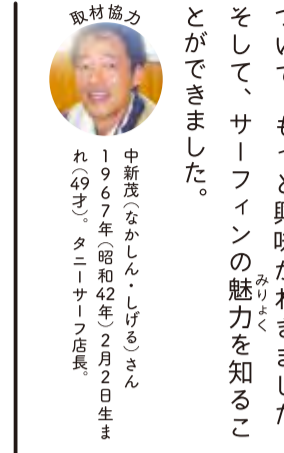
いすみ市沖にはオコゼやエイなど、毒針のある危険な魚も生息しています。また、ゴチという魚も背ビレとエラにとげがあり、とても危険です。これらの危険な魚も食べると、とてもおいしいそうです。魚以外にもカジメという海そうがたくさん生えていて、豊かな海を作っています。すき通った水と白い砂浜というのが海のイメージでしたが、海そうがたくさん生えているような海が、魚にとっては住みやすい場所だと分かりました。

いすみ市にはオコゼやエイなど、毒針のある危険な魚も生息しています。また、ゴチという魚も背ビレとエラにとげがあり、とても危険です。これらの危険な魚も食べると、とてもおいしいそうです。魚以外にもカジメという海そうがたくさん生えていて、豊かな海を作っています。すき通った水と白い砂浜というのが海のイメージでしたが、海そうがたくさん生えているような海が、魚にとっては住みやすい場所だと分かりました。



いすみ市にはオコゼやエイなど、毒針のある危険な魚も生息しています。また、ゴチという魚も背ビレとエラにとげがあり、とても危険です。これらの危険な魚も食べると、とてもおいしいそうです。魚以外にもカジメという海そうがたくさん生えていて、豊かな海を作っています。すき通った水と白い砂浜というのが海のイメージでしたが、海そうがたくさん生えているような海が、魚にとっては住みやすい場所だと分かりました。

いすみ市にはオコゼやエイなど、毒針のある危険な魚も生息しています。また、ゴチという魚も背ビレとエラにとげがあり、とても危険です。これらの危険な魚も食べると、とてもおいしいそうです。魚以外にもカジメという海そうがたくさん生えていて、豊かな海を作っています。すき通った水と白い砂浜というのが海のイメージでしたが、海そうがたくさん生えているような海が、魚にとっては住みやすい場所だと分かりました。



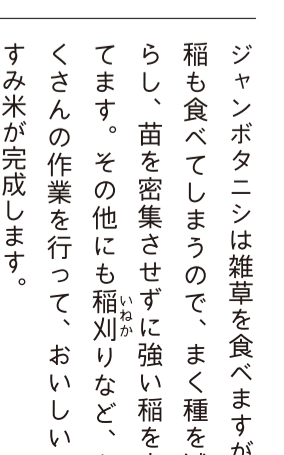
中新茂(なにいし)さん、1967年昭和42年2月2日生まれ(48才)、タニサーフ店長



大野健(おのけん)さん、1944年昭和19年9月13日生まれ(71才)、夷隅郡市自然を守る会・会長



最首恵介(さいしゅゑいけい)さん、1958年(昭和33年)2月23日生まれ(58才)、夷隅東部漁業協同組合・参事



鶴淵真一(つるふみ)さん、1973年(昭和48年)6月22日生まれ(42才)、農家(つるかめ農園)

## 優雅な光を出す源氏ぼたる



いすみ市の山田地区は源氏ぼたるが多く、「源氏ぼたるの里」に指定されています。夷隅郡市自然を守る会の大野健さんによると、源氏ぼたるが住みやすい環境は、里山で人と自然が共生して、水路がきれいなところなんです。源氏ぼたるの魅力はオスがいつせいに飛び交い、集団で光り出すことです。オスには発光器が2個あり、1個のメスよりも光が明るいそうです。昔は「オオポタル」や「ヤマポタル」などと呼ばれていましたが、一説には、優雅な光を源氏物語の主人公「光源氏」になぞらえ、「源氏ぼたる」と呼ばれるようになったそうです。

## いすみ米の秘密



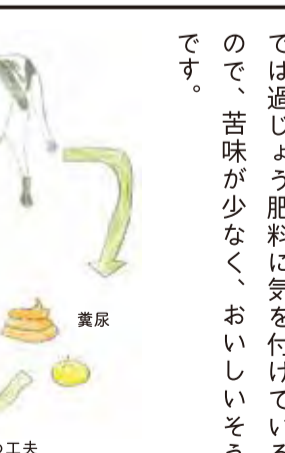
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## 見守ってくれる太東埼燈台



いすみ市太東にある「太東埼燈台」は、いつも漁船を見守り、みんなから愛されている灯台です。いろいろな人との出会いの場という意味で「恋のヴィーナス岬」とも呼ばれています。すくすくすきな名前です。また、2011年(平成23年)から、NPO太東埼燈台クラブが主体となり、周辺の清そうと木々の手入れ、スカンユリという花を植える「花咲く灯台プロジェクト」をしています。太東小学校も毎年11月に4年生が参加しています。

## 見るだけじゃないんだ いすみの菜の花



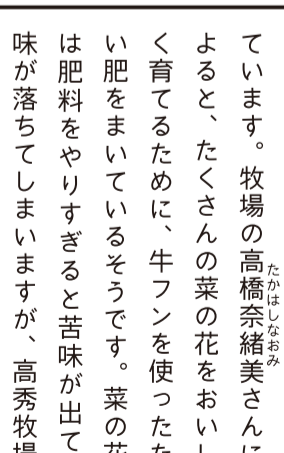
いすみ市を走るいすみ鉄道では、黄色い車体にムーミンが描かれたムーミン列車が走っています。春先には沿線にさく菜の花や桜がともきれいで、たくさんの人たちが訪れます。そんな菜の花は見るだけでなく、おいしく食べることもできます。

## いすみの菜の花の成長過程



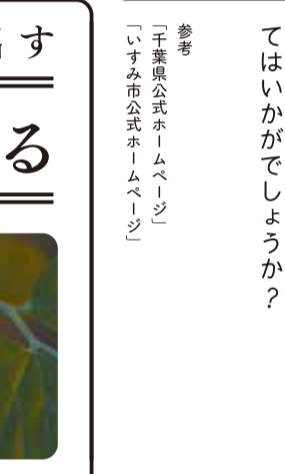
いすみ市で一番大きい面積の高秀牧場では、「食用菜の花」の栽培もしています。牧場の高橋奈緒美さんによると、たくさん菜の花をおいしく育てるために、牛糞を使ったたい肥をまいているそうです。菜の花は肥料をやりますと苦味が出て、味が落ちてしまいますが、高秀牧場では過じょう肥料に気を付けているので、苦味が少なく、おいしいそうです。

## いすみ米の秘密



いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



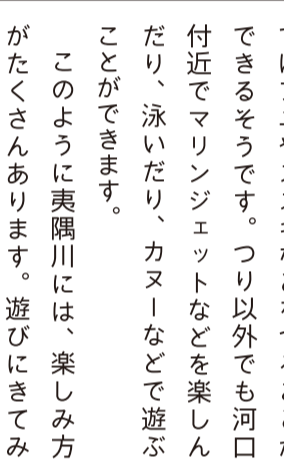
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



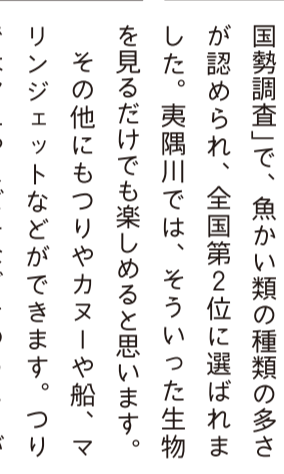
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



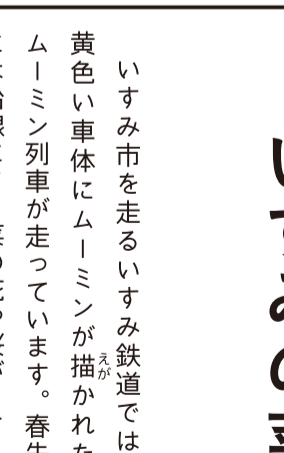
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



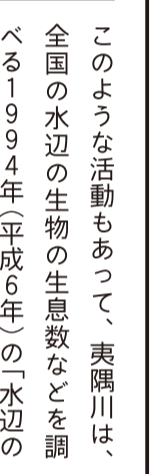
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



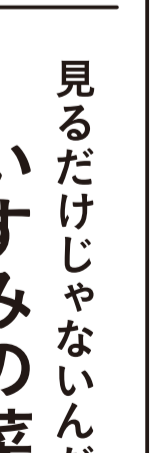
いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

## いすみ米の秘密



いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

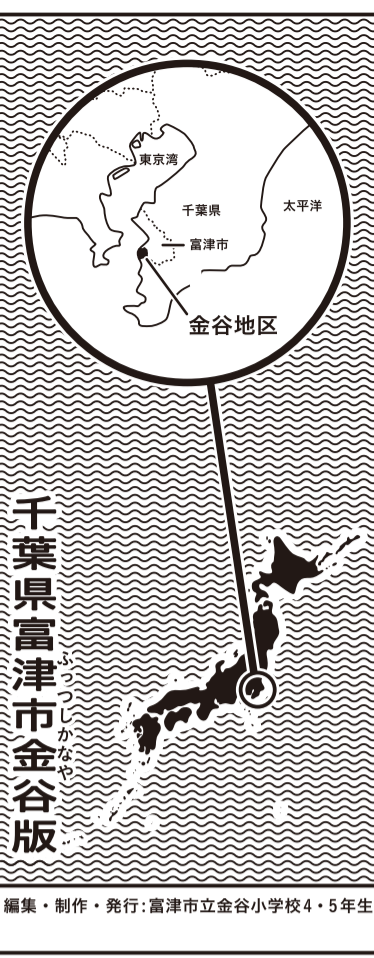
## いすみ米の秘密



いすみ市の「いすみ米」について、米農家の鶴淵真一さん、修子さんにお話を聞きました。皇室への献上米だったといすみ米は、無農薬のものも多く、ミネラルをバランスよく含んだ粘土質の土で育てるので、冷めるとおいしいそうです。食べ方は、おにぎりが特においしいそうです。もう一つはやっぱり、炊き立てのご飯(特に新米!)がおいしいです。いすみ米作りは、3月の苗作りから始まります。根を強くし、たくて強い苗にします。田んぼの水が少なくて機械が入れず、少ないと稲が倒れてしまうので、6月~9月は水の管理をします。田んぼにジャソボタニシから稲を守ることも必要です。

# うみやまかわ新聞

テーマ：自然いっぱい石の町、わたしたちの金谷へようこそ



編集・制作・発行：富津市立金谷小学校4・5年生

## 鋸の歯のような形の

# 鋸山

鋸の歯のような形から名付けられた鋸山は、富津市金谷と安房郡鋸南町の境にあり、誰でも楽しめる山として観光客から人気です。天気の良い日は富士山や東京スカイツリーなども見ることができ、関東の富士見百景にも選ばれています。かつては房州石(別名・金谷石)と呼ばれる石材の石切場で、鋸の歯のような形は、この石切の名残です。



上：鋸山の全景 下：山頂からの風景



左：石切場の跡地 右：鋸山山頂

鋸山の登山コースは、かつて切り出した石を運んだ「車力道コース」との1つです。東京湾を見下ろしながら登る「観月台コース」などがあり、台コースから日本寺境内に入ると、石大仏や素晴らしの展望を楽しめます。



吉田勇(ゆう) 1947年昭和22年8月1日生まれ(68歳) 富津市金谷出身、富津市立金谷小学校卒業

鋸山の見どころは石切場あと、日本寺にある日本一の石大仏、地獄のぞきなどです。日本寺には薬師瑠璃光如来という高さ日本一(31メートル)の石大仏があります。地獄のぞきは切り立った岩ばんで、ここから下を見ると目がくらみ足もすくみまします。高さはもちろん、今にも折れそうな岩ばんが、とてもスリリングな名所の1つです。

鋸山の登山コースは、かつて切り出した石を運んだ「車力道コース」との1つです。東京湾を見下ろしながら登る「観月台コース」などがあり、台コースから日本寺境内に入ると、石大仏や素晴らしの展望を楽しめます。

鋸山の登山コースは、かつて切り出した石を運んだ「車力道コース」との1つです。東京湾を見下ろしながら登る「観月台コース」などがあり、台コースから日本寺境内に入ると、石大仏や素晴らしの展望を楽しめます。



鋸山山頂までらくらく行けるロープウェイ

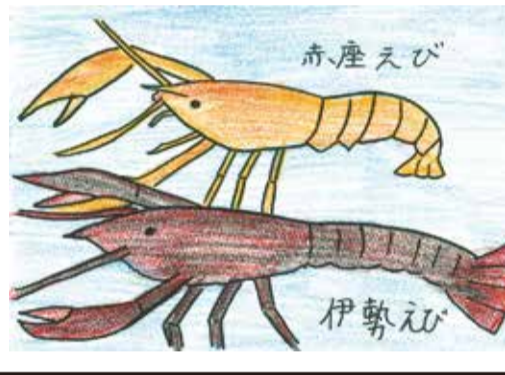
鋸山の観光の目玉は、標高329・4メートルの山頂までを約4分で結ぶのが鋸山ロープウェイです。千葉県の県花である菜の花を表す黄色と、真っ赤な夕日の赤い車体の鋸山ロープウェイは、千葉県で唯一のロープウェイです。空気がすんだ晴れた日には、富士山、伊豆大島、東京スカイツリーなどの絶景が見えます。元日は早朝特別運転をしていて、初日の出スポットとしても大変人気です。

また、山頂には鋸山ロープウェイ開業50周年を記念して作られた、房州石(金谷石)のポストがあります。このポストから手紙を送ると願いが叶うと言われ、ロープウェイ、金谷漁港、鋸山の地獄のぞきが描かれた特別な風景印が金谷郵便局でおられます。



上：日本一の石大仏 下：スリリングな名所・地獄のぞき

## 金谷の海の幸



金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

## 大迫力!! 東京湾フェリー



左：かなや丸 右：しらはま丸

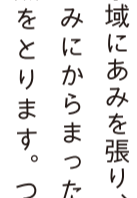
首都圏から金谷への交通手段の一つに、神奈川県久里浜と金谷を結ぶ東京湾フェリーがあります。晴れて空気のすんだ日には富士山が見え、風を受けて、船上からながめる景色は最高です。東京湾フェリー株式会社職員の黒川さんによると、東京湾フェリーは観光を目的に、1960年(昭和35年)5月3日に運航開始したそうです。現在は「しらはま丸」と「かなや丸」という2隻で運航しており、両方とも全長約79メートル、時速24キロメートルで、580名が乗れる大きな船です。金谷から久里浜までは約35分、久里浜から金谷へは、船をせりかえるので約40分かかります。

最近では車での利用客が少なくなつたので、もっと利用してもらえようという、房総半島を満ちてきたような歩こう会ツアーなど、さまざまな企画をしているそうです。鋸山ウォークや東京湾フェリー船上から見る「初日の出クルーズ」などもあり、お客さんに喜んでもらえるように努力しているそうです。

最近では車での利用客が少なくなつたので、もっと利用してもらえようという、房総半島を満ちてきたような歩こう会ツアーなど、さまざまな企画をしているそうです。鋸山ウォークや東京湾フェリー船上から見る「初日の出クルーズ」などもあり、お客さんに喜んでもらえるように努力しているそうです。

最近では車での利用客が少なくなつたので、もっと利用してもらえようという、房総半島を満ちてきたような歩こう会ツアーなど、さまざまな企画をしているそうです。鋸山ウォークや東京湾フェリー船上から見る「初日の出クルーズ」などもあり、お客さんに喜んでもらえるように努力しているそうです。

## 金谷の海の幸



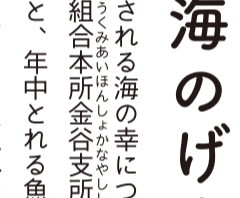
金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

## 金谷の海の幸



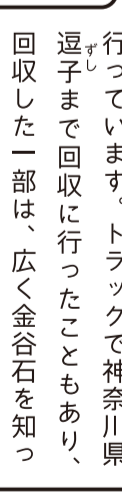
金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

金谷の有名な海の幸が高足ガニや赤座エビです。高足ガニの特ちょうはその大きさと、左右の足を広げると4メートルものもいるようすです。この高足ガニを食べられるのは、千葉県でも金谷だけです。金谷の老舗旅館「かぢや旅館」では、仕入れた高足ガニや赤座エビをいけすで保存し、新鮮な状態で提供しています。5代目、黒川豊さんにお話をうかがいました。

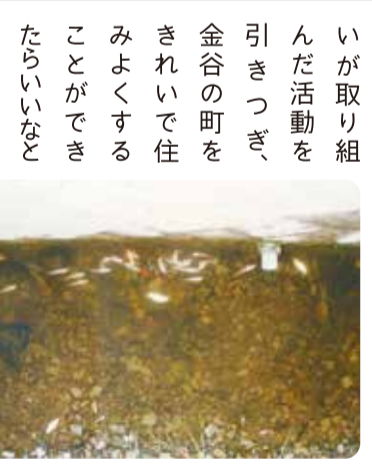
## 金谷から見える絶景



恋人の聖地

金谷の海岸沿いには、フェリーの港やレストランやお土産物屋さんなどがあり、休日は観光客でにぎわいます。空気がすんだ状態に、風が強く晴れた日には富士山や対岸の神奈川県、伊豆大島も見えます。漁船が往来し危険なので、金谷で

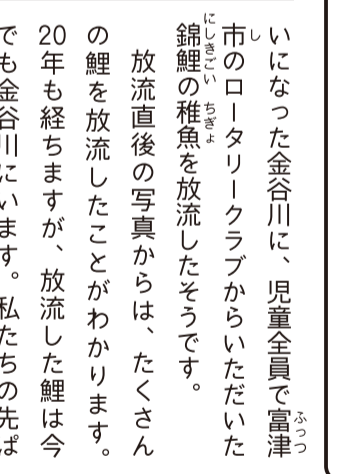
## 自然を感じる 金谷川



金谷には、金谷川という川があり、約20年前に金谷小学校の児童が、総合学習で空きかんやごみを拾うなど、川をきれいにする清そう活動をしていた。1996年(平成8年)には、きれ

金谷には、金谷川という川があり、約20年前に金谷小学校の児童が、総合学習で空きかんやごみを拾うなど、川をきれいにする清そう活動をしていた。1996年(平成8年)には、きれ

## 自然を感じる



金谷には、金谷川という川があり、約20年前に金谷小学校の児童が、総合学習で空きかんやごみを拾うなど、川をきれいにする清そう活動をしていた。1996年(平成8年)には、きれ

金谷には、金谷川という川があり、約20年前に金谷小学校の児童が、総合学習で空きかんやごみを拾うなど、川をきれいにする清そう活動をしていた。1996年(平成8年)には、きれ

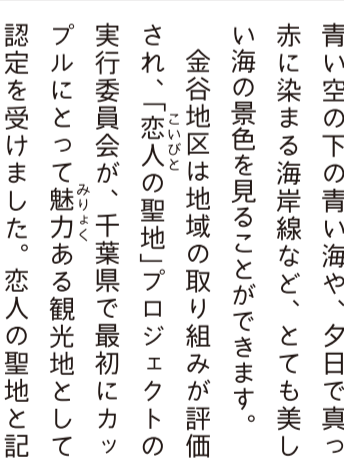
## 金谷のほたる



「うみやまかわ新聞」の制作を通して、金谷にはほたるがいることを知りました。ほたるは、きれいな水や自然の残った川岸、木が残る場所に生息する

「うみやまかわ新聞」の制作を通して、金谷にはほたるがいることを知りました。ほたるは、きれいな水や自然の残った川岸、木が残る場所に生息する

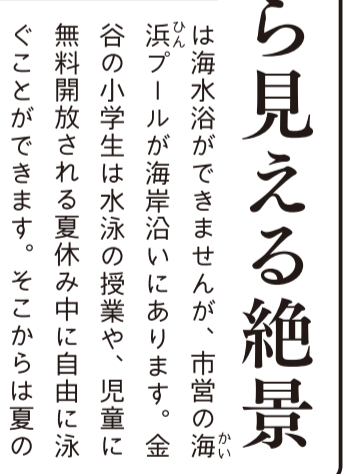
## 金谷のほたる



「うみやまかわ新聞」の制作を通して、金谷にはほたるがいることを知りました。ほたるは、きれいな水や自然の残った川岸、木が残る場所に生息する

「うみやまかわ新聞」の制作を通して、金谷にはほたるがいることを知りました。ほたるは、きれいな水や自然の残った川岸、木が残る場所に生息する

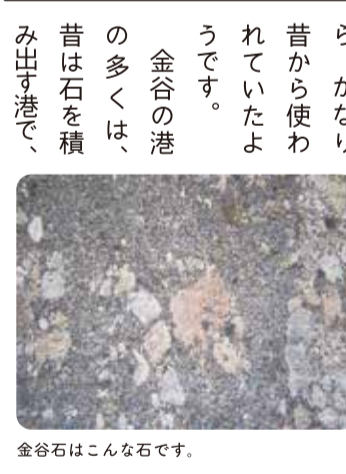
## 金谷の城



昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

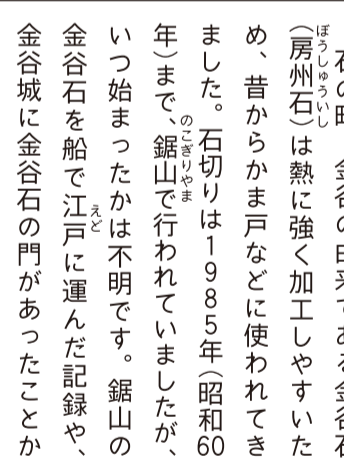
## 金谷の城



昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

## 金谷の城



昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

## 金谷の城



昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。

昔、金谷地区には、金谷城(別名・明鐘城)という支城(岩のような役割)があり、安房の里見氏と上総の真里谷武田氏の間で激しい攻防がありました。金谷城は1532年(天文元年)に真里谷武田氏が築城。その後、安房を治めていた里見義実の子、義成が落城させています。